

参観実習 1 週間、教壇実習 2 週間の合計 3 週間の教育実習に行って、私は多くのこと(授業の在り方、生徒指導の在り方、学校現場の課題など)を学んだ。その中で、大学での教育実習(二)の授業と直接的に結びつくと思った「ええ授業」について改めてまとめたいと思う。しかし注意しておきたいことがある。それは、私は授業より生徒指導の方が大切であると考えているということである。そう考える中で、「いかに生徒指導を授業内に取り込む(いかに先生が解説などを話さないか、いかに解説の時間を生徒指導に充てる)ことができるか」これが私の考える「ええ授業」の指標である。この私なりの視点を含めて、今回の教育実習で実際に経験したこと、見受けたことから「ええ授業」について考え直すことにする。

今回の参観実習 1 週間で、私は多くの先生方の授業参観をさせていただいた。その中で私が特に「ええ授業」だと思った授業は中 1 の英語の授業と中 2 の英語の授業であった。担当されていた先生はそれぞれ別の先生であったが、この 2 つの授業には共通点があった。先生が文法の説明などをする時間が比較的少なく、生徒にペアワークなどをさせる機会が多くあった。生徒がペアワークなどをする間に先生は机間巡視を行い、もし寝ている生徒を見つけても「起きなさい！」などと強く注意するわけではなく、注意を促しながらも生徒に寄り添う形で接していたのである。私は、この 2 つの授業におけるこのような様子を見受けて、「これこそ生徒指導を含んだ授業であり、ええ授業だ。」と思った。私は生徒に寄り添ってこそその生徒指導であると感じる。もし「～君、起きなさい！」や「そこ！集中切れているぞ！」と先生が授業中生徒に注意するようなら、それは生徒指導ではなく、先生から生徒への一方的な命令になるのではないかと私は考える。残念ながら命令まがいの生徒指導があった授業もあった。私はこのような 2 つの生徒指導があった授業を見て、生徒の様子をしっかりと観察していた。きちんとした生徒指導のある授業では、授業中眠ってしまう生徒はほとんどいなかった。(おそらくペアワークなど生徒が中心になる時間が多く、先生にも生徒指導をする余裕が生まれるからではないだろうか。)しかし、命令まがいの生徒指導があった授業では、少なくとも 3～5 人の生徒は眠ってしまっていた。そこに先生が「起きなさい！」などと注意するのである。(おそらく先生中心の授業なので生徒にとっては楽しくない。またそのような注意をされて、先生を困らせるため逆に眠り続ける生徒もいるのかもしれない。)これが私が見た 2 つの授業の違いだが、「生徒指導を含めた上での授業」と考えると、やはり前者が「ええ授業」と言わざるを得ないと考える。

最後に、私自身がこの実習中に実践した上で感じた「ええ授業」について書いて終えようと思う。実習生の身なので「ええ授業」など一つもなかったが、その中でならこれが「ええ授業」という授業と「これは最悪な授業」だと感じた授業を比較する。前者は、先述した通り生徒に活動させる「生徒中心の授業」(この授業で寝た生徒はいなかった。)であった。後者は、生徒に発問はするものの「教師中心の授業」(授業 50 分のうち 40 分は私が話した。寝る生徒が目立った。)であった。やはり「生徒中心の授業」(先生がいかに説明などで話さないか、本来なら話しそうになる時間を生徒指導に充てられるか)、これこそ「ええ授業」なのではないかと感じた。